藤沢
エコネット

２０１９年6月1日
第301号

藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

主な記事
- 平和行進に参加して
- 原発事故から８年 IISORA シンポ(2)
- 2019 藤沢市予算は　　・ヤップ島
- エコストア・パパラギ開業

http://econet2015.sakura.ne.jp
事務局　e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎／ＦＡＸ　0466－87－4922

エネルギーの転換を！！　　６月は環境月間

５月１８日に屋久島で 100mm/時の雨量で観測史上最多記録、２６日には北海道佐呂間町で 39.5℃（この日北海道で 38℃を超え１０カ所）、５月での猛暑日続出。５０年に一度の記録更新。

昨年に続き顕著な異常気象…。国民は温暖化・気候変動をストップしたいと願っている。

映画「モルゲン　明日」を観て、ドイツでは気候変動をストップさせるためにエネルギー転換ができたのに、日本ではできないのはどうしてか考えさせられた。温暖化・気候変動をストップできるどうかは、エネルギー転換にかかっている。

温室効果ガスについて藤沢市では 2022 年までに４０%削減を目標に掲げ、27.7%削減した(2015 年度末)。 藤沢市において 2023 年以降、2050 年までに実質０をめざして今後の 中・長期計画が問われている。４年前「エネルギーの地産地消推進計画」を策定した市議会でその検証と今後について議会での議論が進むことを市民は期待している。

中・長期計画策定のためには、小田原市では商工会議所が中心となりカーボンバジェット（炭素予算）法による新たな試みがなされ、注目され始めている。さらに、環境省による地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン改定検討会の委員である専門家（藤沢市在住）の協力も必要である。

政府は先月「パリ協定」に基づいて策定する長期戦略案で、「2050 年までに温室効果ガス排出量の 80%削減」を掲げ、その実現に向けたシナリオで「脱炭素社会」の実現をめざすとし、再生可能エネルギーを主力電源化することなどが盛り込まれた。

しかし、石炭火力については座長の北岡氏案では「CO2 の排出量が多い石炭火力発電について全廃に向かっていく姿勢を明示すべき」と明記したが、中西経団連会長などの反対で「全廃」にまでは踏み込まれなかった。また、原発については「実用段階にある脱炭素化の選択肢」と位置づけ、原発推進の姿勢を鮮明にした。原発再稼働について多くの国民は反対している。

アマリリス　（ヒガンバナ科）

政府は、６月に大阪で行われる G20 においてパリ協定実現に向けて議長国である日本政府が「エネルギー転換について」どのように表明するか世界が注目している。この６月の環境月間に私たち市民・国民による活発な議論が必要である。

エネルギー転換を決めるのは 国民である。（宮地 俊作）

原発事故から８年 IISORA シンポ

(前号からの続き)

３月２３日、福島市で開催の IISORA シンポジウムに参加『原発事故から８年、「放射能公害」と飯舘村再生への斗い』レポート後半は、裁判外紛争解決、略称 ADR と除染土のことです。

■ADR と訴訟

- 原子力損害の賠償に関する法律は過失のあるなしにかかわらず無制限の賠償責任があるとするため、東電に加害者意識が薄い。
- 紛争審査会に東電は毎回参加しているが被災当事者の参加は一回のみ。
- 避難による地域社会の喪失は「避難先で生活ができれば」では解決しない。
- 浪江町が呼びかけての集団 ADR は、東電が初めて和解案を拒否した事案。４年かけて協議したが打ち切り。他の ADR のように「受け入れるのが基本で、異議があれば責任企業の側が提訴」という形にさせるべきだった。
- 浪江は今後、個別 ADR と集団訴訟の２つの方法でやっていく。

■除染と除染土の処理について

- 除染土のセシウムは、土に固着するので水にはほとんど出てこない。作物への移行も少ない。それは今中さんたちと実験してわかっている。南相馬での実践でも結果は出ている。
- それなのになぜ長泥での実証実験をやるのか。「長泥でも大丈夫だった」というインパクトがほしいのではないか？
- 長泥に盆正月帰宅する人に「帰宅しているなら帰還したいよね」という言い方で「帰還希望」とのはんこを押させて数を集めている。
- セシウムの流出が少ないとは言っても、これからずっとそれを民地で管理していると言うことでいいのかという問題もある。

（杉山百合子）

2019 年度藤沢市の予算は…

藤沢市の 2019 年度の一般会計予算は 1,490 億 2,200 万円（前年比 107.6%）、

特別会計 1,201 億 7,351 万円(前年比 103.3%）で総額 2,691 億 9,551 万円（前年比 104.5%）となりました。

予算の大きな特徴は藤沢市が神奈川県や鎌倉市と共同で進めようとしている村岡新駅建設と周辺の拠点整備事業を促進する一方で、今まで藤沢らしさの象徴でもあり、他市より優れていた 33 事業に及ぶ高齢者や障がい者福祉、子育て支援策等を削減しようとしていることです。

藤沢市は村岡新駅建設だけでなく、西北部の新産業の森や相鉄いずみ野線延伸とその周辺開発事業などの大型開発をいくつも抱え、推進しようとしています。

一方で、中期財政フレームで今後５年間に 584 億円の財源が不足するとの財政見通しを発表し、扶助費が多く含まれる福祉や子育て分野の事業費を抑制する方向を打ち出しました。「藤沢市は財政が厳しいのでは」と思われるかもしれませんが、実態はどうでしょうか。

2016 年度決算で藤沢市の財政力指数は全国 791 市中 28 位、自主財源比率では 31 位です。

市の財政当局も歳入は「当面横ばいで」推移することが見込まれているとしています。

問題は歳出でどこにその財源を優先的に使うべきなのか、ということです。

村岡新駅建設をはじめとする大型開発計画は中止し、税金の使い方を福祉暮らし優先に切り替えて、国保や介護の利用料の軽減、認可保育園の待機児童の解消、高齢者へのバス等助成制度など、福祉の充実を図ることこそ求められています。　　（味村耕太郎）

平和行進に参加して

５月６日、核兵器のない世界の実現をと原水爆禁止国民平和行進が被爆地広島、長崎へ向けて、４つのコースに分かれて出発しました。5月１６日はここ藤沢市役所本庁舎前から茅ヶ崎総合体育館前の行進でした。

鈴木市長からのメッセージが届けられ、参加者にとって一層の盛り上がりとなり元気づけられました。

沿道から手を振って応援してくれる方、チラシを受け取って読んでいる方、高山交差点付近では、ひまわり園の子どもたちがお揃いの真っ赤なコスチュームと手づくりのタペストリーで迎えてくれました。

ベビーカーで参加の寛介くんは出発からほどなく夢心地で神台公園まで爆睡。参加者のシュプレヒコールや歌が気持ちよかったのでしょう。

神台公園ではアピールコンテストが行われ、新婦人の親子で作ったタペストリーが見事に「注目を集めたで賞」をいただきました。休憩後は３人の通し行進者に続き、リズムサークルのお母さん、ベビーカー、サポーターの方たちの行進する様子に歓声が沸いておりました。

ベビーカーで参加の親子

将来ある子どもたちが安心して生きられる、核兵器のない世界を目指し「核兵器禁止条約」の一日も早い発効に向けてこれからも参加しようと思いました。

（小内一枝）

エコストア・パパラギ開業

プラスチックを減らしていくライフスタイルを提案していく店を開業しました。

海をフィールドにして働いてきた私たちにとって、“海洋プラスチック問題”は、目をつぶる事の出来ない問題でした。

このままのペースだと、２０５０年には、魚の数よりもプラスチック片の方が多くなってしまうという試算があり、何とかして身の周りにあふれているプラスチックを少しでも減らしていく提案が出来ないか？と模索する中で、プラスチックに替わる生活用品と、気をつけていても日々の生活の中でたまっていく容器包装パッケージをしない、量り売りの店をやろう！という事になりました。

やるならば、身体にも環境にもよいオーガニックの食品を取り扱おうと、４５年間無農薬、無化学肥料でお米や野菜を栽培している生産者の方や、同じく無農薬、無化学肥料で５０年間お茶の栽培をしている生産者の方と会い、取り扱う商品を定めていきました。

様々な出会いの中でつくづく感心させられたのは、どんな所にも信念を持ち、こだわり続けて生産を続けている方々がいらっしゃるという事でした。

ビニールハウスを使わず、路地で自然の恵みを受け、多品目少量主義で丹精込めて作られた野菜の美味しい事！　畑から摘まんで「食べてみて！」と言われて頂いた野菜は、まさに本来の美味しさが実感出来るものでした。玄米で入れているお米の精米したての美味しさも格別です。

また、手摘み一番茶の新芽の柔らかさ、入れたお茶のまろやかな甘みは、お茶の味の常識を覆すほどでした。家庭で洗って使う事のないお茶（通常、お茶は葉にそのままお湯を注いで飲みますよね？）は、一般の生産方法では特にネオニコチノイド系農薬の残留量が多いので、「飲む農薬」と評されています。お茶こそオーガニックである必要性を新たにした次第です。その他、オーガニックナッツやドライフルーツ、生分解する洗剤などを取り扱っています。

環境にも自分の身体にも良いものを、必要な量から購入出来てゴミの出ない量り売り、ぜひ一度お試し下さい。（詳しくは、HP「エコストアパパラギ」で検索して、ぜひご覧下さい。）　　山本　洋子

ヤップ島

地球上でもっとも大きくて重い貨幣（石貨）があるミクロネシア連邦ヤップ島に着きました。正にこれから環礁の切れ目（パス）に入り入港を目指すというその時、大きな積乱雲に覆われ風速４５ノット（２０ｍ／秒）の風と約５ｍの波に翻弄されー時沖に避難、いきなりヤップの神様からの洗礼を受けたようです！

（石貨と村の集会場。威厳に満ちた神聖な場所）

ミクロネシアの島々においてほとんどが母系社会であって、ヤップは父系的な社会、早朝から清掃に励む若者の姿、礼儀正しい人々の様子等明らかに他の島々とは違う雰囲気を感じます。

とあるきっかけから、３０年弱になるヤップ島との関わりを通しこの島から学んだ事や気付き等はとても貴重なものです。

しかしこの島でも、時代や大国のエゴに翻弄され変わりつつある姿に心を痛めています。

（太平洋航海中　2018.5 武本匡弘）

（偏東風（貿易風）があたる東海岸、驚くほど多くのペットボトルが打ち上げられている（流出先不明））

放射能測定値（市民計測）

（HORIBA　Radi）単位（μSv/h）地上 50cm

5/22 雨の後	円行桐ケ谷公園	砂の広場	0.031
5/22	桐ケ谷公園歩道（浸透レンガ）		0.052

ECONET　INFORMATION

▲第８回震災復興支援コンサート&トーク

収益金は震災復興支援に当てられます

6/15(土)13:30-15:30

藤沢市民会館第一展示ホール 主催:実行委員会

チケット¥500　当日券も¥500(中学生以下無料)

▲「身のまわりの環境ホルモン」

命と環境を考える講座　講師　中下弁護士

６月 18 日(火)14:00-市民会館第２会議室

保育室あり　無料　☎0466-26-0088

主催/申込み　NPO パパラギ海と自然の教室

▲「モルゲン、明日」映画上映

ドイツ市民のエネルギー革命

６月 28 日(金)10:00-　14:00-　(2 回)

茅ヶ崎市民文化会館小ホール　前売り券¥800

主催/問合せ　チームみつばち 090-9328-3799

▲藤沢エコネットから

◆藤沢エコネット学習会&総会

６月 23 日(日)15:30-　F プレイス 3F(旧労働会館)

「ストップ！異常気象・気候変動

国・地方の温暖化対策はどうすべきか！？」

講師　歌川学さん(産業技術総合研究所主任研究員)

どなたでも参加できます　ご一緒に学びましょう!

資料代 ¥300　参加は 080-5099-4264 まで連絡を

総会は 14:00 からです

◆会員募集　年会費・購読料→２０００円

ゆうちょ銀行　(9900)　店番　(029)

当座預金　0046501 ﾌｼﾞ ｻﾜｴｺﾈｯﾄ

◆事務局会議　６月 １ 日（土）14:00～

プラザむつあい

《編集後記》「ごみゼロの日」の５月 30 日 藤沢市の海岸でプラごみ拾い清掃が行われ 430 人が参加した。海のプラごみ汚染がこのところ急に取りざたされているが、実はプラスチックが容器包装材料として活用された時点で海に流れ出さない、完璧な対策が必要だった。今からでも良いからゴミを散らかさない工夫をしたいものだ。プラスチックを使わないことに挑戦を！　（H）